



応援します、生涯学習 — ふえる知識と仲間の輪

令和2年10月1日発行

あい風通信

46号

(学びのスタンプ通算 53号)

講座再開 にあたって

充実した市民生活の一助に

いしかり市民カレッジ運営委員会
委員長 林 一元

皆様にはその後お変わりなくお元気でお過ごしのことと思います。先にお知らせの通り、当カレッジでは新型コロナウイルス感染防止の観点から、4月以来講座実施を自粛してまいりました。幸いに道内での感染者数は比較的落ち着いた現状にあり、広く社会での活動を「自粛」から「共存」へと、その対応を模索する状況にあります。本校は開校以来12年目を迎え、これまでの総受講者は19,019名と正に多くの市民のご理解とご支援に支えられてまいりました。当カレッジの行う活動がこれからも充実した市民生活の一助となることを願い、この9月末より講座を再開実施することにいたしました。

これからも市民の皆様のご希望ご支援に副えるよう、堅実な運営に努めてまいりますので変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

安心して受講いただくための対策とご協力をお願い

9月からの講座再開にあたって、新型コロナウイルス感染防止のため、下記の対策を講じ、受講生の皆さんが、「安心して講座に参加できる」環境を整えるべく最善をつくして取り組んでおります。「学びの場」をコロナから守り持続させるために、受講される皆さんのご協力をお願いいたします。

◎会場受付で(石狩市花川北コミュニティセンター)

- ・手指の消毒徹底・・・消毒液設置
- ・受講者全員の検温実施
- ・受付場所を1階ロビーに設置
- ・受付に遮断透明シート設置
- ・間隔保持のためスタッフを配置

◎講座会場で

- ・机・椅子の使用前、使用後の除菌実施
- ・講師演台に感染防止パーテーションを設置
- ・1机1人掛けを原則とする。
- ・アンケート用紙回収箱の設置



◎受講者へお願い

①自宅を出る前に

- ・検温で体調確認
- ・受講料は釣銭の無いよう準備
- ・必ずマスクを着用

②入館時

- ・入口で必ず手指の消毒
- ・受講料・手帳等の事前準備

③受付で(1階ロビー)

- ・対人距離の保持(1m以上)
- ・スタッフによる検温の実施
- ・氏名確認 ⇒受講料 ⇒スタンプ押印
⇒講座資料(*講座会場机上に事前配布)

④新規加入・年度更新手続きの方

- ・年度会費1,000円持参：
学びの手帳、年度シール交付

⑤講座会場で(2階)

- ・講座会場に入る際はスタッフの指示で
- ・座席は、1机1人掛けを原則とする
- ・アンケート用紙は回収ボックスに投入
- ・近距離、対面での会話自粛

第22回修了証授与式 年度末(3月)実施予定

年2回(9月・3月)行っていた修了証授与式は、新型コロナの影響で講座開催が9月以降にずれ込んだため、来年3月に行うことになりました。

カレッジ生の皆さんは、「学びの手帳」のスタンプ数を確認され、各ステージに該当した場合は忘れずに申請書を事務局に提出されるようお願いいたします。

市民カレッジデータ
(9月23日現在)

- 登録者～133人
- 連携団体～106団体



ロゴ制作者
丸山英里子さん

お待たせしました 講座スタート！

延期中の講座も含め 10～12 月に集中



* 講座会場はすべて 「石狩市花川北コミュニティセンター」

講座 1 2 「北海道農業と私たちの暮らし」

講 師 酪農学園大学名誉教授 中原 准一

第 1 回「北海道の産業構造と農業」 日 時 10 月 8 日(木) 10:30～12:00

第 2 回「メガ FTA 時代の北海道農業」 日 時 10 月 29 日(木) 同 上

第 3 回「食の安全と北海道農業」 日 時 11 月 5 日(木) 同 上

食の供給基地北海道、道民は陰につけ陽につけ日々その恩恵を受けております。それを支える産業の一つが農業であり、農業王国北海道として安心安全な農産物の供給を通して高い評価を得ております。しかし、今や北海道農業は農産物自由化等による国際化の波を受けつつその対応に迫られております。このような実情のもと、今一度北海道農業をより身近な問題として、上記のテーマについて学んでみようではありませんか。

講座 3 「縄文遺産群の世界遺産登録と石狩市の遺跡」

講 師 札幌国際大学縄文世界遺産研究室長 越田 賢一郎

日 時 10 月 15 日(木) 10:30 ～12:00

昨年、北海道・北東北の縄文遺跡群がユネスコ世界文化遺産候補として、北東北の遺跡群とともに道内の 6 遺跡が推薦されました。この講座では、縄文遺跡群とは何か、世界遺産としての価値とは何か、さらに石狩にある遺跡についても学びます。

講座 1 「アイヌ語地名と北海道」

講 師 アイヌ語地名研究会会長、北海学園大学名誉教授 藤村 久和

日 時 10 月 20 日(火) 10:30～12:00

北海道には「ナイ」「ベツ」のつく地名が多くあります。ほとんどがアイヌ語に由来するもので、北海道に住む私たちにとっては何でもないことと思われる地名でも、アイヌ語と深くかかわっていることがあります。今回は、アイヌ文化研究の第一人者の方に詳しく語っていただきます。

講座 5 「人生 100 歳時代～100 年人生を有意義に生きるために～」

講 師 北海道大学名誉教授、北海学園大学名誉教授、元北海学園大学学長 朝倉 利光

第 1 回「不安と期待の地図のない旅」 日 時 11 月 19 日(木) 10:30～12:00

講 師 元北海道新聞社・編集委員 福田 淳一

第 2 回「人生をもうひとつ～若返る高齢者～」 日 時 11 月 26 日(木) 同 上

第 3 回「生きがい探し～社会参加と孤独のはざま～」 日 時 12 月 10 日(木) 同 上

平均寿命が延び、「人生 100 歳時代」と一般的に語られるようになりました。高齢者の体力の若返りや、リタイア後にもう一つのライフステージを持つことの重要性が指摘されています。生き生きとした後半戦を有意義に送るための生きがい、社会参加、健康、お金などについて具体的なヒントを伝えます。

講座 1 3 「『ニュースの裏窓』を知ろう！」

講 師 前 UHB 常務取締役、前 UHB 解説委員、北星学園大学非常勤講師 高橋 純二

日 時 12 月 3 日(木) 10:30～12:00

わたしたちが毎日、漫然と受けとめている新聞やテレビのニュース。でも、それは「表」と「裏」があることをご存知ですか？ つまり、「表」だけを知っていても、全体を知ったことにならないのです。世の中に山ほどある情報メディアを主体的に読み解くにはどうすればいいのか。「ニュースの真相」にどうしたら近づけるのかを学びます。

◆まちの先生企画講座について

講座 1 「お家で簡単！ジェルネイル」講座 2 「イチゴを摘んで手作りジャム作り」は、講師・受講者の接触が密になること、講座 3 「初心者向け健康吹矢」は、強く息を吐く動作が基本となること、などにより中止と致しました。なお、講座 4 「プロが教える人生の棚卸～『知って始める終活連続講座』」は、新型コロナ感染防止に注意して開催致します。

令和3年度に向けた準備を始めました

◇主催講座の取組

本年度の主催講座が9月から再開され、これから年明けの1月にかけて講座が目白押しとなっていますが、市民カレッジ運営委員会では既に来年度の年間主催講座の検討が始まっています。本年度開催予定だった「三船殉難事件～忘れてはならない終戦後の悲劇」など7講座が優先して来年度に持ち越しされるほか運営委員からの新規提案や、あい風通信で募集したカレッジ生からの提案も含め14講座が候補に挙がっています。この中には座学講座のほかバスを利用したの現地見学なども数多く含まれています。今後、関係者一同、魅力のある充実した講座づくりを目指し、数次にわたる企画会議等を経て年内に概要が決まる予定となっています。

◇まちの先生企画講座の取組

9月11日(金)に令和3年度「まちの先生企画講座」応募講師説明会を行い、4名が応募されました。

内訳は、「北海道開拓者の先達者を銅像を通して点描する講座」「ダッチオーブンを使って作る野外料理講座」「初心者向けの吹矢講座(令和2年度中止講座)」「手作りジャム作り講座(令和2年度中止講座)」です。

今後、検討を重ね、10月中過ぎには令和3年度開催講座を決定する予定となっています。

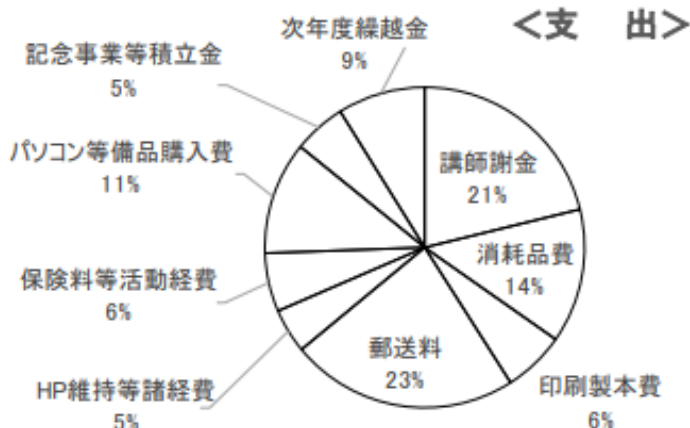
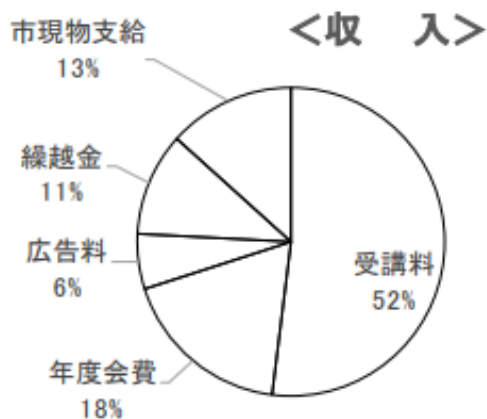
運営経費からみた“いしかり市民カレッジ”

～皆さんの受講料と年度会費が大きな力となっています！～

市民カレッジは皆さんのお陰で順調に歩みを続けていますが、令和元年度を例にとりて経費の面から運営を眺めてみることにします。総経費は約113万円でしたが、グラフから判るように収入の70%は皆さんの受講料(52%)と年度会費(18%)であり、企業からの広告料(6%)と合わせて、これらが大きな収入源となっています。

一方、支出として大きいのは講師謝金(21%)と郵送料(23%)です。あい風通信を1回送るのに約140円かかり、年4回、350カ所に送っていますので約20万円はかかります。講座資料やあい風通信などの印刷代、バス利用時の保険料など様々な経費がかかりましたが、パソコンを少し高機能のものに更新し、特別講師招へいや記念事業、備品購入など将来に備えての積立も行うことができました。

市からは毎年15万円の現物支給がありますが、市教委との協働運営によって会場費やバス代が無料となり、事務局経費もかからないなど、目に見えない形で大きな支援を得ています。



チョコっと
いしかり学
《13》

「花川南防風林」の多様な価値

石狩遺産プロジェクトM会長 安田 秀司

いしかり砂丘の風資料館が事務局となって運営している市民団体「石狩遺産プロジェクトM」では2016年度から「石狩遺産」の認定を毎年行っており、2019年度まで11件の「石狩遺産」が認定されました。「石狩遺産」は石狩市の歴史や文化、自然などが織りなす「未来へ引き継ぐ価値」を持つ事柄を、あるテーマに沿って複数の資産をグループ化したものです。例えば1号では「鮭漁の歴史」、4号では「石狩海岸の自然」、6号では「石狩の油田」をテーマに、6～30件もの「構成資産」により「石狩遺産」が構成されています。

面白いのは複数回登場する構成資産もあることです。「花川南防風林」は、石狩遺産2号の「紅葉山砂丘」、5号の「防風林」、8号の「花川地区の土地利用の歴史」と、3回も構成資産として取り上げられ、その地学的価値、歴史的植生維持の価値、防風林機能の価値など多様な側面にスポットが当たりました。三つの遺産を横断して解説すると「花川南防風林は紅葉山砂丘の地形が今に残り、明治からの植生を残す大切な防風林で一部散策路もつけられて住民に親しまれている。また、開拓時代から村民規約で厳重に守られ、この地区の農業には欠かせないものだった」という感じになり、多様さがよく分かります。

「石狩遺産」は、地元の価値再発見により石狩を誇りに思う人を増やそう！という狙いもあります。すべて石狩遺産ホームページで閲覧できますので、ぜひ、地元の価値再発見を楽しんでください。



石狩の不思議 ～ これ何？ 「石狩川河口」

石狩川河口はハマナスの丘公園のシンボル石狩灯台ができた明治25年には灯台からわずか200mのところがありました。その後、砂嘴は約60年で1300m伸びました。年間25mもの速さで伸びましたが、昭和20年ごろ右岸の護岸工事によりその伸びは止まり、ほぼ現在の形になっています。



木道の終点から管理道路を歩くと河口先端部に到着、川と海が会うそこには両者が衝突してできる三角波を見ることができます。

定期的に通っていると、先端部の地形が日々変化していることに驚きます。

一見穏やかな石狩川と海が石狩特有の強風による高波で砂丘が浸食されて浜崖ができ、新たな堆積によって汀線が大きく変化しています。

特に今年は先端部浸食が激しく、ダイナミックな自然を体験できます。

(※石狩川左岸砂嘴汀線の経年変化の記録はHP「花畔・網」(石川氏)に詳しい)

〈写真上〉汀線の記録「花畔・網」より

〈写真下〉先端部浸食進む浜崖 (森 幸二)

編集後記

本年からスタッフの一員として編集委員を仰せつかりました。限られた紙面と字数の中で丁寧に分かり易く伝えようという編集委員の皆さんの心意気を肌で感じています。

9月から待望の講座が再開となり、来年1年間の年間主催講座の検討も始まりました。これから先、感染防止対策の徹底を図りながらつつがなく開講出来ることを願っています。

このたびカレッジ生からご寄付を頂戴致しました。お礼方々ご報告させていただきます。

(E.N)

■ 発行

いしかり市民カレッジ運営委員会

編集担当: 鈴木、石井、太齋、徳田、西、光川

■ お問い合わせ 石狩市公民館

石狩市花川北6条1丁目42 TEL & FAX: 0133-74-2249

ホームページ いしかり市民カレッジ 検索